

RELEASE COMMENTS

北の大地で形成された日本人特有の肉体、厳しい自然と対峙する身体から湧き上がる表現の空気感が浸透している音。とはいえ、土着的民俗的感覚に陥ることなく、凜とした冷たい研ぎ澄まされた感触が保たれている音。これは完全に役割が分担されているメンバー三人が、一つの世界の中の揺るぎない位置で音を鳴らしているからに他ならない。

凍《こご》えた土、夜の涯《はて》、赤く蝕《むしば》んだ月。この音源には脈々と血が通っている。人間の血。血と雫。朱《あか》く、蒼《あお》く。

October 10, 2012 / 川口トヨキ(BACTERIA)

シンプルってすごく複雑な事だよね。まだ言葉になっていないような様相、表情の洪水。コメント引き受けたんですけど、言葉が到底追いつけない。三人の肉まで聴こえてくる。すごくエロティックで、ちょっと恥ずかしいくらい…。音楽の無修正は規制されないから、良かったですね、森川さん！

November 6, 2012 / Atsuo(Boris)

御三方の演奏は、情報量を極力削ぎ落としたような少ない音数でも一音一音の強度に凄みがあり、始まりから終わりまで緊張感がまったく弛む事がなく、間や弦の摩擦音にまで情念が宿っているようで、とても素晴らしいと感じました。それを補う、Richard Horner、中村宗一郎、秋田和徳、ReguReguという各界の面々の耽美へのこだわりが、一つのパッケージとして全く隙がない純度の高い作品として結実しています。資本を費やした数多の作品群を遥かに凌駕する傑出した一枚だと思います。

November 6, 2012 / 松田知大(WRENCH, te)

部屋とYシャツとセックスと嘘とビデオテープと血と雫。パツと見ではわからないが全員ひっそりと狂っています。

December 8, 2012 / 掟ポルシェ